

平成 24 年度 地域の“まちづくりびと”養成講座
仲間づくりでまちづくり も～やっこ DE み～つけ♪

第3回 「まちを知ろう」 ～データや資料からまちの様子を知る～

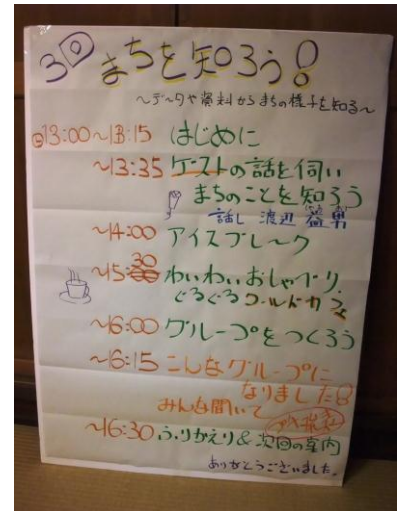
日時：平成 24 年 11 月 3 日（土）

場所：善光寺別院 願王寺

時間：13 時 00 分～16 時 30 分

11 月に入ってから急に冷え込んできて、朝夕は寒さが堪えるようになってきましたが、22 名の受講生の出席もあり、会場内は、皆さんの熱気で温かく、活発な意見交換や色々なアイデア等出されました。

また、講座の冒頭にゲスト講師として中小田井地区で長くお住まいになっておられる渡辺さんをお招きし、当該地区に関わる貴重なお話を伺いました。



13:00～13:15 はじめに

最初に、配布資料の確認などを行った後、前回の講座の振り返りを行いました。

前回の講座は、3 時間の「まち歩き」を行った後、会場に戻り、“タンケン発見マップづくり”や“プチ発表”を行いました。

「まち歩き」では心配していた事故や特に問題になったこともなく、大変良かったです。皆さんの良識ある行動に感謝します。



13:15～13:35 ゲスト講師のお話を伺いまちのことを知ろう

お話の要旨（ゲスト講師：渡辺益男さん）



昔は庄内川には島があり、渡し場があり、船の往来がありました。戦後は 30 年ちょっと過ぎ、島は取り除かれました。庄内緑地は江戸時代から遊水地に作られたようです。

また、この地域は水害がしょっちゅうありました。平成 12 年の東海豪雨では、新川が決壊し、甚大な水害に遭ったが、大がかりな改修はできていません。

岩倉街道は室町時代には完成しており、この町は野菜を城下町に運び、帰りに城下町のものが運ばれていました。豆腐やこんにやくなど大八車に米俵やナタネ油を積みギシギシ言わせながら運ばれていました。

昭和 20 年頃までは、賑わっており、大正時代には銀行もありました。メイン道路として中小田井が一番賑わっていました。なかでも野菜は何でもありました。西春、岩倉方面に無いものが中小田井にはありました。

今の小学生は知らない桶屋が3軒始め藍染屋、染物屋、ザル屋、桑問屋、うどん屋などありましたが、庄内橋ができ、師勝や小牧、枇杷島や一宮へと市場は移動し、交通は便利になった一方、寂れていきました。

地権者の相続も難しくなり、造り酒屋の家屋を取り壊し移転されました。歴史のある「平手家」は、格式の高い庄屋で、農地も多くありました。「松沢家」は貴族院で広い敷地があり、味噌蔵などもありました。

13:35~14:00 アイスブレイク

アイスブレイクは、「仲間の輪をひろげよう」というものです。

最初に会場が寒かったこともあり、寒さを吹き飛ばすため、後出しジャンケンをしました。

会場が和やかになったところで、参加者が円の内側と外側で向かい合い、まずは握手をしてから自己紹介をします。ただ名前を言うだけでは、なかなか印象に残らないので、名前に加えて、例えば、趣味、顔の部分で一か所取り替えられるとしたらどこ、自分を動物に例えると何に似ているか、好きな食べ物・飲み物は、何色が好きなど、2項目程度を選んで交互に紹介します。紹介が終わったら、内側の人のみが左に移動して、引き続き、自己紹介をします。紹介の短い人や長い人が見えますので、合図をしたら、途中でも中断して、一斉に移動します。



14:00~15:30 わいわいおしゃべり、ぐるぐるワールドカフェ

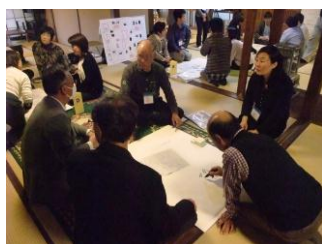
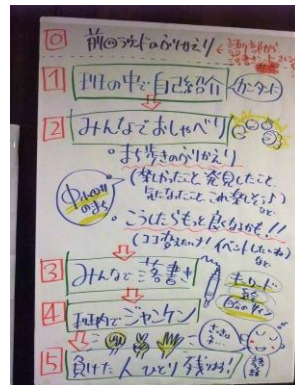
受付で先着順に渡した資料にAからHまでのアルファベットが記入しており、そのアルファベットが同じ人で一緒にグループになりますが、参加者の人数により6グループに分かれワールドカフェを始めました。

最初にグループ内で簡単に自己紹介を行い、みんなで、中小田井の「まち歩き」をふりかえり・楽しかったこと・発見したこと・気になったこと・こうしたらもっと良くなるかも！など、おしゃべりをしました。

おしゃべりした内容（キーワード、絵など）を全員が模造紙やポストイット（付せん）に書き込みます。

規定時間（1回目35分、2回目25分、3回目18分）になったら、グループ内でジャンケンをし、負けた人ひとりが“語り部”として残り、その他の人は他のグループに移動します。

なお、休憩はグループ毎に各回の間（2~5分）で適宜とりました。



ワールドカフェの様子



ワールドカフェの成果



15:30~16:00 グループ（チーム）をつくろう

ワールドカフェで話しあった内容を踏まえ、自分を取り組みたいこと・興味のあることなどのテーマをB4版の画用紙に記入し、プラカード方式でアピールしました。（スタッフは外れる。）スタッフは、同じようなテーマの人を見つけ誘導し、4グループ（チーム）ができました。

各グループの名称は、「中小田井を知り隊」「まもってあげ隊」「Caféさんぽ」「イベント班」（仮称を含む。）に決まりました。



16:00~16:15 こんなグループになりました！フ千発表

各グループから「こんな思いで集まったグループです！」と発表し、メンバー紹介を行いました。



「中小田井を知り隊」

町並みを保存するにも、地元の人たちは何を考え、どんな気持ちなのかを知るために、地元の人たちと交流をしたい。



「イベント班」

これから朝市などの色々な催しをしていきたいと考えているので、催しの開催時には皆さんの参加をお願いします。



「Café さんぽ」(仮称)

まちを歩くときにオープンな縁側などで地元の人と交流する場を設けたい。



「まもってあげ隊」

大きな包容力で、古い町並みを守ってあげたい。

16:15~16:20 ふりかえり

加藤武志さんに今日の講座をふりかえっていただきました。

「ワールドカフェでの皆さんの意見交換から3つのことに気づきました。

1つ目は、仕組作りを考えていたグループがありましたが、それを実現するためには“あめとムチ”で、“あめ”は税の優遇措置や助成で、“ムチ”は条例や制限などのガイドランです。町並み保存地区には助成金制度がありますが、これを踏まえて話す必要があります。2つ目は、“ハードとソフト”です。“ハード”は建築物や町並みのことで、“ソフト”は催しやヒヤリングといったアクションのことで、“ハード⇄ソフト”を行き来することが大切です。

3つ目は、“うちとそと”です。町の課題は“うち”に住んでいる人が決めることで、“そと”の人が町の課題を押し付けても迷惑です。そここのところをわきまえる必要があります。しかしながら、“そと”のひとの着眼点や仕掛けは大変貴重で、それによって、住んでいる人の意識が変わった事例もあります。まずは地元の人々の声を聴く、寄り添って考える、イベントを支援することなどから始めることが肝要です。

先ほど自治という言葉がでていましたが、昔は良いことだから決めていたのではなく、必要だから、生活をしていくなかで助け合わなければ暮らしていけなかったからです。また、共同体としてメリットがあったから決めていました。今の時代に、自治や町並み保存の話を持ち出しても僭越です。お金だけではなくその人にとってプラスになるかを考えて行動することが大切です。」



16:20~16:30 次回の案内

最後に都市センター職員から次回の案内、アンケート等を行い、第3回の講座は終了しました。

今回の講座は、グループ分けが上手く出来るか心配でしたが、皆さんの大人の判断で無事にグループ分けができ、またまた皆さんに感謝です。

*** アンケートより、全体を通じたご意見・ご感想など ****

- ・ 中には立ったり、座ったりが多いので、人によっては辛そう。
- ・ 最後は皆さん同じ思いであった。
- ・ 上から目線では、まちづくりはできないのではと思う。住んでいる人はまちづくりをどう思っているのか疑問に感じる点が多い。
- ・ グループ形成が出来ました。これから「ガンバリ」ます。
- ・ 短時間で意見をまとめる難しさ・・・。
- ・ 意見の交替・やり取りが個人的にも全体的にも出来ていると感じることができた。
- ・ 今日もうかがいました。
- ・ 加藤先生の最後のお話良かったです。
- ・ 実際にまちづくりをしたいと思ったら、大変ですよ。と思いました。
- ・ 皆さんの想いは共通点が多く大事にしたいと思う！ 休、飲、食べる・・・！
- ・ 色々な人の意見を聞けてよかった。
- ・ 相変わらず、私は意見や考えをみんなに伝えるのが苦手だな、と思った。グループを途中で移動したけど、なんで移ることになったかよく分からないうちに移ってしまった・・・。楽しそうだから別にこだわりませんが・・・。
- ・ 歴史と文化を残す事の大変さがよく分かりました。
- ・ 皆さんの考える課題やこうした方がいいという意見がぐるぐるカフェで集約されたことがとても参考になりました。